

吉備国際大学附属図書館

図書館だより

KIU Library News

先生が選んだイチ押し本のご紹介

先生がどんな本に出会い、感銘を受けたのか、ぜひ手に取って読んでみてください。

図書館にご提出いただいた順番に、ご紹介しております。

ネガティブ・ケイパビリティ -答えの出ない事態に耐える力-

帚木蓬生/著 朝日新聞出版 10号館図書館所蔵 (493.7/Ha)



一論理を離れ、どのようにも決められない、宙ぶらりんの状態を回避せず、耐え抜く能力、それがネガティブ・ケイパビリティ。・悩める現代人に最も必要な“共感能力”の土台となるもの。心が汗をかいたとき癒しの指針を与えてくれる、精神科医・小説家からのメッセージ本です。『逃亡』（柴田錬三郎賞）以来、ハマってしまった帚木先生の著作には、“生きる力”が溢れている！

心理学科
栗田喜勝先生



学問のしくみ事典

茂木健一郎/監修 日本実業出版社 10号館図書館所蔵 (002/Ni)

学問とは何か、その成り立ちは、展開は？ 人文・社会・自然・文化芸術の各分野の系譜と相関を図で俯瞰でき、知的好奇心を満たしてくれる待望の一冊！さすがモギケン！

君たちはどう生きるか

吉野源三郎/著 岩波書店 2号館図書館所蔵 (Iw-158-1)

山本有三編纂『日本少国民文庫』第5巻として1937年に刊行され、今日に至るまで青少年に読み継がれている人間の生き方を問うた人生読本です。巻末の丸山真男の回想が秀逸！



人生を熱く、深く、そして重く生きたいと思っている人には必読の一冊です。

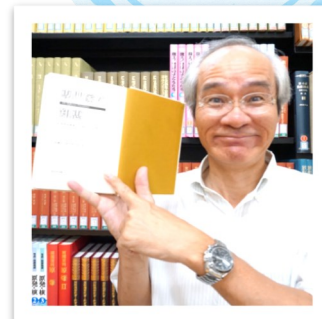
※掲載の書影は出版社より許諾を受けたもののみ使用しております。転載・転用等のご遠慮ください。

「教えること」を教える先生が書いた教師のための「教える技術」



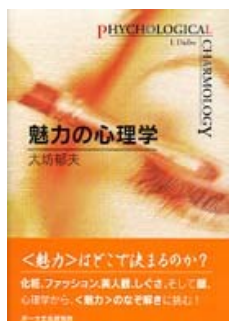
向後千春/著 明治図書 2号館図書館所蔵 (375.1/Ko)
みなさん！人から教えてもらうこと、人に教えることは、教室だけではなく、部活やサークル、アルバイトなどで非常に日常的な行為ですよね。しかし、上手な「教え方」を学んだことは、ありませんよね。教育学部へ行っても、そういう授業はあまりないようですよ。その「教え方」について、どのようにすればよいのかというコツを、分かりやすく身につけることができる、とっておきの良書です。ぜひ、手に取ってみてください。

理学療法学科
平上二九三先生



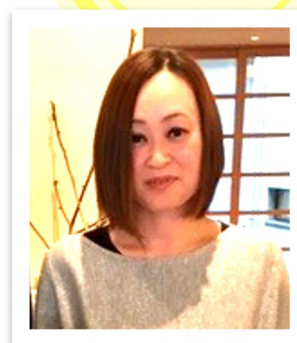
魅力の心理学

大坊郁夫/著 ポーラ文化研究所 10号館図書館所蔵 (361.4/Da)



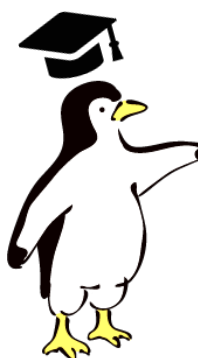
綺麗なもの、綺麗な人、可愛いもの、可愛い人・・・
きっと、皆さん興味ありますよね？
そもそも人を惹きつける「魅力」って何なのでしょう？
私たちが惹きつけられる「魅力」について、色々な側面から探ってくれている1冊です。

心理学科
橋本翠先生



山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた

山中伸弥/著 緑慎也/聞き手 講談社+a 文庫 10号館図書館所蔵 (491.11/Ya)



この本は、私のバイブル的存在の一冊です。
研究に行き詰った時、迷った時、自信がなくなった時・・・
いつもこの本に励まされています。
ノーベル賞受賞という偉業を成し遂げた研究者でも、日々迷い、苦悩と闘い・・・そこにある謙虚な姿勢と研究に対する真摯な態度に、いつも励まされています。

弱いロボット 岡田美智男/著 医学書院 2号館図書館所蔵 (007.1/Ok)



「ロボット」というと、どんなものを思い浮かべるだろうか。超合金! 力が強い! 丈夫で硬い! 頭がいい! など力強く賢くて、人間にはできない高度で精密な作業や重量物を扱う力仕事、高速で正確な頭脳労働などをする機械を思い浮かべることが多いのではないだろうか。

ところが、この本では、人間より弱くて、おどおどして自信なさげで、機能も足りないロボットが登場する。そんなロボットが何の役に立つと思うが、人間はこうした弱いロボットをついつい助けてしまうらしい。ふらふら頼りないごみ箱ロボットにごみを入れ、おどおどするティッシュ配りロボットからティッシュを受け取る人が多いそうだ。一見弱くても、人間と環境と協働して(助け合っ)機能を果たすロボットを、著者の岡田先生は長年研究している。

人間と人工物のかかわりを超えて、ケアをする/されるという人間同士の基本的な関係を考えるうえでいろいろな示唆があるはずだ。

アニメーション文化学科
大谷卓史先生



そして、バトンは渡された

瀬尾まいこ/著 文芸春秋 2号館図書館所蔵 (913.6/Se)



誰かのことを大切に思えるということが、どんなに幸せなことなのか、この物語をラストまで読んで、もう一度冒頭のシーンを読んでみてください。幸せってきっと特別なものではなくて、こういう場面の、こういう気持ちを積み重ねていくことなんだと強く感じました。「明日が二つになる」という言葉が出てきます。とっても素敵で、血のつながりがあったりなくても、そこに愛があれば人は幸せなんだ、ということを感じることが出来ました。おすすめです! ぜひ読んでみてくださいね。

看護学科

清水菜月先生



3月のライオン

羽海野チカ/著 白泉社



「3月のライオン」は映画にもアニメにもなりましたので、「将棋の漫画だったよね」と知っている人も多いでしょう。「様々な人間が何かを取り戻していく優しい物語です」と作品紹介にあるように、将棋だけでなく、主人公をめぐる人間模様がこの作品の一番の魅力です。私は「学校臨床心理学」の講義の中で5~7巻についてよく取り上げます。いじめ、不登校、学級崩壊について余すことなく描かれています。対人援助職や教員を目指す人に、自信をもってお勧めします。きっと涙なくして読めませんから。

心理学科

津川秀夫先生



地域創成農学科
氷見英子先生

大きな音が聞こえるか

坂木司/著 株式会社KADOKAWA 南あわじ志知キャンパス図書館所蔵 (913.6/Sa)



大学附属の高校に通う主人公。ほどほどに裕福な家庭でたくさん愛されて育って、不満も不安もない。世の中にはたくさん不幸な人がいるのに、こんなゆるま湯でいいのだろうかと思う毎日。それが、海外にいる叔父からの連絡やふと見た動画など、いくつかの偶然が重なって、主人公は「アマゾン川の逆流」に突き進んでいくことに……。

急激に背が伸びるときって、寝ているときに骨がきしむ音がするようですが、この本はまさしく「成長する音が聞こえてくる」ような感じ。読みながらもういてもたってもいられないような気分させられて……。なにこれ!!おもしろいじゃない!!



置かれた場所で咲きなさい

渡辺和子/著 幻冬舎文庫 2号館図書館所蔵 (198.24/Wa)



かつてのベストセラーなので知っている方も多いと思いますが、あえてこの本を推薦します。ノートルダム清心女子大学理事長の渡辺和子先生が女子大生向けに書いた生き方の本ですが、女性に限定しません。私のようなおじさんでも大いに感銘を受けました。境遇に恵まれない、思うように進めないこともある、しかしそれが自分の人生であり、現状を大いに受け入れることで新たな展開が見えてきます。人に優しくなれる、また男子大学生にもぜひ読んでもらいたい一冊です。「人はどんな境遇でも輝ける」(本書の帯より引用)

醸造学科
福田恵温先生



生き方 人間として一番大切なこと

稲盛和夫/著 サンマーク出版 2号館図書館所蔵 (159/In)



稲盛氏は京セラグループの創業者であり、また最近では破綻しかけた日本航空を見事に復活させた人物である。多くの企業経営者が人生観を踏まえた書籍を出している中で、稲盛さんほど慈愛に満ちた見方をしている人はいない。進む道に迷ったとき、「これは世の人のためになるか？」が判断基準であったという。企業経営の指南書ではない、自分の人生にもっとも大切なことを教えてくれる本である。

